					4月			5月		6月		7	月		#	写			9月	٦.	10月	1 1	1月	1 1:	2月		#	写	Т			1月		2月		3月		書写	
	平成29年度壱岐市立勝本小学校 第4学年 国語科教材別指導事項対応表		らばう	白いぼうし	漢字の組	が 風景	もコリー	漢字の広場	・俳句に親しもう(地域のなる写真な温がときにはを選ぶときにはる写真のなる写真のなる写真のなる写真のなる写真のなる写真のない。	いろいろな意味をもつ	一つの花	の風景	考えを云えるための広場②	4 ) 腰ゅたい	順と字形28	と画の付き方	分の組み立て方(左	+	カンジー博士の漢字し	漢字の広場	ごんぎ	秋の風景	アップとルーズで伝える アップとルーズで伝える	短歌・俳句に	漢字の広場の	の組み立て方(「かまえ」「た	部分の組み立て方(上)		字どうしの大きさ	学期合う	野原に集まれ	風景 ざのなぞを追っ	字の広場⑤	聞き取りメモの工夫	究レポー	えのの	年後のわ	ぎ生めの	三学期合計
			5				じう		- P L	業							右		ŋ				5	_		- I.	_	1:	2			τ							
時数		1 1	8	2 2	2 2	4 8	3 2	1 15	2 1	8	2	7 2	5 4	2	2 3	3 8	37 2	2 1	15 2	14	2 2	8 8	1 8	2 4	1 2	3 3	2 2	2 3	85 2	5	2 8	2	6 2	15	2 7 2	2		65 ##	
話すこと・聞くこと		1				4											5	1	15										15				6					6 26	
書くこと			1		2		2	15		2	2	7 2					33			3		8		2 2	2				19	5	_	2		15		2		28 80	
読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		1	7			8	3		1	6			5		_		28 2		_	11		8	8	_					29 2		8				7	-		17 74	
123		首文化と国語の符頁に関する手項  「関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。			2 2	!			1 :	2				4	2	2 3	3 2	21	2			2		1	1 2	2 2	3 3	2 2	2 3	22	+		2	0		2	+	7 3	14 57
詰ま	話題放走や取付																			1	H		+				-				+	-		0			+	++	
ź	話すこと	ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	0										+			-				_			+				+		+ +		+	+	+				+	+	
٤	聞くこと	エ 話しの中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること。	Ť							0													$\top$											0					+
閉		★ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や授業などの役割を果たしながら、進行に沿って禁し合うこと。		П			0			Ť					tt						H					Ħ					1 1		$\Box$						
<		ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。																	•	•														•					
Ę	言語活動例	イ 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。					•																																
٤		ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。																																					
		ア開心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を開べること。				0			0													0																	
	構成	文章全領における必須の投資を理解し、自分の考えが問題になると対に、必須相互の関係などに注意して文章を構成すること。     よ     こ     こ     は     こ     は     は     は     は    は     は     は     は   は    は    は    は    は    は    は    は    は    は    は    は    は   は    は    は    は    は   は    は   は   は   は   は   は   は   は   は										(	2										0									_							4
	記述	ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。						+	-											_						+					+		+				-	_	
書	推敲	エ 文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くこと。 オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。		0				0	0			-	)							-						+			+						0		0	+ +	-
l:	交流	カ 書いたものを発表し合い。書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。						-				-	_							-											0	0					, 0		+
٤	~ <i>m</i>	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。		•								•								-			+										+						+
		・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・		-					•														+												•				+
	言語活動例	ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。																					•																
		エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。																																			•		
	音読	ア内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	0	0														0																					
	説明的な文章	1 日的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実との関係を考え、文章を読むこと。					C	)															0																
	文学的な文章			0							0										0			0												0			
書本	の形成及びな						C	)															_									0	)						4
む	流	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。		0																			_							С									4
=	目的に応じた読書	<ul><li></li></ul>		•										0		_		•	++	-	•		-			-	-			•		-	+				+	++	+
٤		/ 初語で耐を説の、窓芯を述べ口りこと。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。		-										•				_		-	•									_	1								+
	言語活動例	ウ 記録や報告文の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。					•													-			-									•	,						+
		エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。									•												$\top$									Ť							+
		オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。																					•																
伝	(1)ア 伝統的な	ア 易しい文語類の地歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じとりながら音換や暗唱をしたりすること。							0															0															
統約	伝統的な言語文化	イ 長い間使われてきたことわざや慣用句。故事成語などの意味を知り、使うこと。																				0																	
な		ア言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	0 0	Ш			0														Ш		_ _	0															
言		イ漢字と仮名を用いた標記などに関心をもつこと。																																		0			
語	(1)1	ウ 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 エ 句語点を適切に行ち、また、段準の始め、金紙の部分などの必要な簡所は行き改めて書くこと。	+	$\vdash$		-		+	+	+		Н.	)		₽₽	-	+	-	++	-	H	++	-		₩	++		$\vdash$	+		1 1	-	+	+		-	0	0	
化	言語の特徴やきま	→ 切除点を適切に打ち、また、投落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 → 表現したり理解したりするために必要な話句を考し、また、話句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。				0	C	-		)	0	(	)							-						+			+								O	+ +	
ځ	i)	<ul> <li>■ 素別したり根拠したりするために必要なおする様式におけ、ほと、自由して提べる方法を根拠し、関べる目標を付けること。</li> <li></li></ul>		H	C			1					-			-				-	H	+				+	-				+	-	+	+	0			+	
語の		+ 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。		0	_					+			+							-	H	+				+	-					+	+	$\dashv$					
		ク 指事語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。		Ĭ						+			+		Ħ				$\vdash$	0	H		1				1				1 1	$\top$	H	+			t		
特質に関		第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、				+		$\mp$	+	+						1				Ť	Ħ	+	+		Ħ.	$\Box$					1 1	+	H	$\dashv$					
	(1)ウ	ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。 ** ** ** ** ** ** ** ** ** * ** ** **	7	Н		+		0		+			0	H	Ħ				0	+	H	+	1		0	H						+	0	0		0 0	Ħ		-
	文字	「定面的れている場子を衝射者表 文や文章の中で使うこと   ウ 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。		H	0			-		+			Ť			-				-	H	+				0	-				+	-		+				+	
す		ア文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。		H									-	0	0	0	0		++	-	H		+			+	0		,		1 1	+	+	+			+		
る事	(2) 書写	イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。		$\dagger$		+		+		+			+	H					++	+		$\pm$	$\top$		$\vdash$	+	+	0			11	+	$\dagger \dagger$	$\dashv$			+	0	
項	音子	ウ 点面の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などを注意して書くこと。		П												0					П		1		ΙÍ	Ħ	0		0		1 1		П					0	